

【西海市西海市】 校務 DX 計画

令和 5 年 3 月、文部科学省から「GIGA スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」が通知され、次世代の校務 DX の方向性が示された。

また、同年 9 月、「校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検を実施したところ、本市の成果と課題が明らかになった。そこで、自己点検の結果を踏まえて、本市では、次の取組を進めていくようにする。

1 FAX でのやり取りや押印の見直し

令和 6 年度、「西海市立小・中学校 執務指針」の見直しを実施し、教育委員会や各学校が校務 DX に対応した業務を進めることができるようにした。その中で、FAX でのやり取りや押印についても、不要と判断できるものについては、積極的に廃止した。

2 学校ホームページの規格統一

令和 7 年度、市内すべての小・中学校の学校ホームページの規格の統一を実施し、更新作業の共通化と効率化を図った。また、ホームページを効果的に活用することで、保護者に対する各種連絡のペーパーレス化を推進する。

3 学校と保護者間の連絡手段をデジタル化

令和 7 年度、市内すべての小・中学校の保護者連絡ツールを統一することで、保護者への連絡手段をデジタル化し、連絡文書のペーパーレス化の実現を図った。

また、統合型校務支援システムと他システムの名簿データを連携させ、手入力による転記作業を廃止し、教職員の業務時間確保を図る。

4 「教育 DX 研究指定校」による先進的な取組の検証

令和 6～7 年度、市内の小学校 1 校を「教育 DX」の研究校に指定し、1 人 1 台端末の効果的な活用により児童・生徒の主体的、対話的で深い学びの実現が確認された。

また、令和 7 年度には研究発表会を開催し、以下の研究成果が市内全ての小・中学校に共有された。

- ・デジタル学習基盤を活用した協働学習や他者参照をはじめとする情報の共有化により、思考の可視化が進んだ。
- ・各種 AI ドリル等の授業支援プラットフォームや学習支援アプリの効果的な活用により、授業改善が図られ、教師の指導力と児童・生徒の学力が向上した。
- ・統合型校務支援システムや新型ホームページ、保護者連絡ツールの活用により、

教職員間の情報共有の円滑化や保護者・地域への連絡および情報発信も進んだことで、従来の紙の使用枚数が削減され、印刷コストや印刷・配布時間が低減されるなど、教職員の業務負担も軽減され、校務の効率化も図られた。

以上のような取組を推進しながら、文部科学省が実施している「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の動向を踏まえ、校務システムの更改のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムに移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を実施していくようにする。